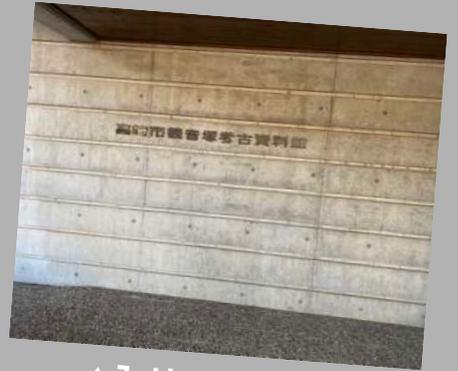


八幡古墳群は八幡観音塚古墳を含む3つの古墳から構成されており、5世紀後半から6世紀の終わりにかけて平塚古墳、八幡二子塚古墳、八幡観音塚古墳の順に築かれました。

周辺地域からは小型前方後円墳や円墳が発見されており、この地域の有力者に従った人々の墓所となっています。



↑入り口の様子

現在は3つの古墳の中心に「観音塚考古資料館」が建てられており、館内では貴重な出土品等を実際に見ることができます。閑静な住宅街の中、資料館を起点に徒歩数分でそれぞれの古墳に行くことができるのが魅力です。

やわたこふんぐん 八幡古墳群について

平塚古墳の公園にある
埴輪のオブジェ →



ひらつかこふん

〈平塚古墳〉

全長105メートル以上
5世紀後半～末に築造
円筒埴輪や形象埴輪が存在
舟形石棺が発掘された
南側のくびれ部に通路がある
現在は一部が公園となっており、近隣住民の子どもたちで賑わっている
尾崎先生が発掘調査に関わった

やわたふたごづかこふん 〈八幡二子塚古墳〉

全長66メートル
6世紀前半に築造されたと推測
円筒埴輪や形象埴輪の他、人物・馬形の器財埴輪が存在
横穴式石室であると想定
他の2基よりはやや小規模だがよく整備されており、この地域の歴史に大きな関わりがある



八幡二子塚古墳の様子 ↑